

ある日の育児日記から

(74)

佐藤 和代



ご近所にとどろき家族でおじゃまする所があります。Mさんという声楽家のお宅。イタリア仕込みのお料理と、楽しい人柄に魅かれて、この家を訪れる人は多い。でも理由はそれだけではありません。Mさんのお子さんはいわゆる自閉症で、多動な子。常時目が離せないのです、他の家やお店で集まることができないのです。Mさんの自宅でも、友人が集まるたび、ビデオを壊した、皿を割った、眼鏡を割られたと、てんやわんやです。私を感じてしまうのは、それでもMさんが外国で集めた高価なお皿を飾っていること。障害児

がいるからってしまいいまない…これは簡単なようで勇気がいります。わが家では、子どもが小さいうちはあちこちガムテープでふさいだっけ。でも、うちでは一、二年我慢すればと思っただけれど、Mさんにとっては違う。いつまで続くかわからないからこそ、今、やりたいことやらなきゃ。…素敵なインテリアから、そんな思いが伝わってきます。こんな子がいるのに仕事をやめないの、と言われることも多いのにひるまず仕事を続けている気持ちもよくわかる。ここでは仕事と子育てで大変、なんてとても言えない。反省しつつ、おしゃべりと料理と元気を、分けてもらっている私です。



Mさんの子、まは遊みたがりますが、有は苦手みたいです。